

田植え体験

2022年6月の土曜日、久保田さんにご協力頂き、田植えを体験しました。

これまで何度も田植えに参加している子どももあり、手慣れた様子でした。

田植えの後には新型コロナウイルス感染に配慮しながら、子供が中心となり焼きそばを作って、一緒に昼食の時間をとりました。

準備をしている子どもの様子を見ていると自分から「他に手伝うことはありますか」等と言って積極的に準備に参加する姿も見られ、成長を感じた場面もありました。

おわりの会では参加してくれたボランティアの方たちの前で「田植えは何度か参加させてもらっているが、難しかった。みんなと一緒に外でご飯を食べて楽しかった。稲刈りが楽しみです」等の感想を発表していた子どもたちでした。



田 植 え 体 験



焼 き そ ば 作 り



お わ り の 会 で 感 想 発 表

豆知識 ※スマサポ事務局員の記憶から

【圃場（ほじょう）整備と種まき】

- ・ 前年収穫後、圃場をトラクター等で耕す。
- ・ 春先に肥料等を蒔き、トラクター等で耕す。
- ・ それと並行して、苗床づくりをする。現代は、苗づくりをお願いすることが多いが、塩水にもみ（皮を付けた米）をつけ良品と粗品に分け、真水に一晩浸してから苗箱（薄く土を入れた）に均等に撒く。そして、薄く土をかぶせ、シート等で温度調整をしながら発芽を促す。発芽後は、寒冷紗などで温度調節をしながら成長を見守る。
- ・ 田んぼに水を張って、代掻き（しろかき）をする。（今はトラクター、昔は牛や馬にスキを引かせる）柔らかくなるまで何回も行い地面（水面）が平らになるようにする。

【田植え】

- ・ 昔は、大勢で手植えを行っていたので地面に竹串等を刃先にした大きなレーキで線を引き、それに合わせて3～5本の苗を植え付けていく。この時、指先から入れないと大きな穴になって根が土になじまない。今は、機械でやっているが、植え直し時や機械が入らないところは手作業。
- ・ 成長させていくためには、毎日の水の供給が大切なため、朝入れて、夕方止める（または逆）の手間が必要。また、水草、雑草（粟・稗）の除草や肥料、消毒散布を行うことが必要。

参 加 機 関

- ・ 甲斐警察署
- ・ 南甲府警察署
- ・ 南アルプス警察署
- ・ 警察本部
- ・ 山梨県少年補導員連絡協議会
- ・ 山梨県遊技共同組合
- ・ ボランティアの方々

子どもたちのことを一番に考えてくださる参加者の皆様ありがとうございました。おかげさまで子どもたちの笑顔を見ることができました。

久保田さんのご紹介

約20年にわたって子どもの立ち直り支援に取り組んでこられました。子どもたちを招いての田植えは恒例行事となっています。久保田さん、これからも一緒に多くの子どもたちを見守って行って下さい。



ホームページはこちらです。
スマサポの活動が掲載されています。
ご興味のある方は連絡お待ちしております。



少年サポートネット推進協議会
愛称：スマイルサポートプロジェクト（スマサポ）
《事務局》

山梨県教育庁 生涯学習課
青少年保護育成担当

TEL 055-223-1357